

DEBUT 首長

山形県酒田市長 本間 正巳氏

低迷に歯止め、雇用創出が大事 高規格道の太平洋岸連結に期待

酒田市 庄内地域北部に位置する港湾都市で人口約11万1000人。江戸時代は北前船の港として栄え、「西の堺、東の酒田」と称された。

——地域経済が低迷しているが、どう立て直すのか。

人口、事業所数、工業製品出荷額をみても減少傾向が続いている。県内の同規模の都市に比べても低迷ぶりが目立つ。歯止めをかけるには雇用が大事だ。ただ、いくら税率などを優遇して誘致を働き掛けても、決めるのは相手。しかも最新鋭の工場ほど機械化が進み、それほど雇用は増えない。むしろ今ある事業所が1人でも雇用を増やせばトータルで増える効果がある。市内の事業所に何とか1人でも多く雇ってもらおうようお願いしている。

とはいえ誘致も大事。市にとってホームランだったのは昨年東京の会社のコールセンターを誘致できたことだ。今後、最大で500人規模の雇用が生まれる。これも長年誘致を働き掛けてきた成果だ。予定通り、募集

人員が集まればさらに増やすと言ってくれている。

——山形県唯一の港湾都市として期待されている。

一昨年、国からリサイクル貨物の日本海側拠点港の指定を受けた。これを機にリサイクル産業の誘致に力を入れたい。幸い、トヨタグループの豊田通商が酒田港を使って鉄くずを山口県に運んでいる。トヨタグループは東北地方を第3の拠点と位置付けているが、宮城や岩手だけでなく、山形にも目を向けてくれたのは大変ありがたい。

——インフラの整備を公約に掲げたが。

昨年10月の選挙戦では社会資本の充実を訴えた。庄内地方の発展には交通網の整備が不可欠。特に新潟と秋田を結ぶ日本海東北道（日東道）は未接続部分が多く、早く全線開通してほしい。地域高規格道路も太平洋側の石巻（宮城県）まで伸びる計画だ。それがつながれば太平洋側と日本海側が結ばれ、日東道、東北中央道、東北道とも接続できる。酒田港へのアクセスも良くなり、港湾機能はさらに



ほんま・まさみ 1947年山形県酒田市生まれ。70年東北学院大学卒業後、山形県庁に入り総務部長などを経て2007年山形県企業振興公社理事長。09年酒田市副市長。前市長の衆院選出馬に伴う12年10月の市長選で初当選。健康のため毎朝、徒歩で登庁する。65歳。

高まるはずだ。

残念ながら鉄道網も庄内地方は取り残されている。新庄と秋田はミニ新幹線、新潟はフル規格の新幹線が来ている、しかし庄内はどこにもつながっていない。高速鉄道に接続するには新庄から山形新幹線を延伸するのが最も現実的。乗り換えずに東京まで行けるメリットは計り知れない。実現に向け全力で関係各方面に働きかけたい。

——再生可能エネルギーにも力を入れている。

庄内海岸は風力発電の適地。県と一緒に市内の海岸に風力発電施設の建設を計画している。これまで景観や騒音、低周波振動などの問題から県は規制してきたが、東日本大震災の原発事故以来、再生可能エネ重視の姿勢に変わった。もちろん環境アセスメントはしっかりやる。地元住民には誠意をもって説明し理解を求めたい。

（聞き手は

山形支局長 高橋 敬治）